

六十一年目の卒業證(証)書 授与と記念植樹

17期 浅田 嘉美

国際環境

日本は明治以来、日清・日露戦争以後の第一次世界戦争を経て満州の建国を支援し、ノモンハン事件を契機に支那事変へと発展しましたが、終結を待たずに太平洋戦争へと戦渦は止めどもなく拡大して、昭和20年8月15日敗戦による終戦を迎えました。

学校の環境

小学校に入学すると、天皇・皇后両陛下の御真影を収納する家屋を奉安殿と称する立派な蔵がありました。祝祭日には、御真影を式場の正面中央の指定位置に掲げて式典が行われ、終了次第奉安殿に戻しておいたものです。

教育環境

教育勅語・親孝行・仇討ち・肉弾三勇士・蒙古襲来等々の思い出がありますが、強烈に印象に残ったのは、蒙古襲来の際に神風が味方して戦わずに勝利したという事で、我が国は神国であると日常茶飯事のごとく教わった

ものでした。そのため、戦争をしても必ず勝つのだと教わりました。

軍事教練

第17期生は、昭和16年4月に入学しました。服装は戦闘服で胸にネームカードを縫い付け、脚にゲートルを巻き、帽子も戦闘帽で黄色の線を一本引き帽章を配して登下校しました。授業は本教科のほか柔道と剣道は選択できると知っておりましたが、教練が正科であることは知りませんでした。体育館の後ろに隣接して歩兵銃などを収納管理してありました。軍事教科の先生を、軍事教官と言って地方の部隊から派遣された軍人が担当していました。

部活動

部活で特別なのは、滑空部と言って「グライダー」を使った部活が新たに設けられました。(操縦を練習)

国民皆兵制度

男子は20歳になれば徴兵検査があり軍籍に登録されます。従って、男子はこの日をもって世間から晴れて一人前として扱われます。

職業軍人

職業軍人も立派な職業でしたから、旧制尋

常高等小学校卒業から旧制中学・旧制専門学校並びに旧制高等学校・大学に至るまでそれぞれ希望する資格に該当する兵科全般(陸海空等々)に一般兵から幹部候補生や上級士官養成の学校へ進学する者もありました。

志願軍人

太平洋戦争も戦場の拡大と予期せぬ敗戦にあえぐ軍部は、少年兵の養成も急務となり学校当局にも募集割当もあつたようです。そして同期もその年齢に達していました。また、志願を志す生徒は、日々戦況の悪化を憂慮しながら、一命を国家に捧げようと決意して、学業半ばに志願入隊した仲間達は、一日も早く戦地へ出征しようと日夜苛酷な訓練を受けておりましたが、無念にも敗戦の憂き目に遭い復員を余儀なくされました。

戦後の世相

戦地の戦況不利と、本土が焦土と化しても勝利を信じて銃後の防衛に捧げた国民も、8月15日の終戦の日は前途に戸惑いました。この後は、生きるための手段に食料や物資の確保に専念しました。なかでも一番路頭(生活)に迷った人は、復員軍人や海外から引き揚げた多くの人々(傷病兵や弱者)であつたと思います。

六十一年度の卒業證書授与式

長かった時間の経過と共に、平和な時代を取り戻し、己の身辺を察すれば、中学校を卒業しないで学業半ばにして少年兵として志願入隊したために、就職活動でも学歴社会であるために履歴書に『中学中退』と書かざるを得ず失望感に悩んだ仲間がおりました。同期会の席上でつぶさに口説いたのを聞きつけ、母校に足を運び校長先生に縷々ご相談申し上げたところ、晴れて卒業證書授与の運びとなりました。卒業前に志願されたとおぼしき方と連絡をとった結果、8名の方が卒業證書を受けたいと希望されました。平成18年3月1日、校長室において、受領者3名と校長先生始め職員並びに来賓として同窓会長ほか同窓会役員の参加を得て、厳粛な六十二年ぶりの卒業證書授与の運びとなり、受領の歓びに浸りながら学校長の計らいに感激いたした次第であります。

卒業證書授与式

授与式は、平成18年3月1日午後3時30分から校長室で行われました。授与者側から菊谷一校長を始め同窓会校内幹事など7名、同窓会から田中純仁会長と当番幹事(30期)2名、受領者8名のうち岩川元一、西村豊、越後(旧姓深谷)春輝知の3名、世話人として浅田嘉美(17期・同窓会副会長)が出席しま

した。欠席者には後日郵送しました。

秋田県立能代中学校

第十七回卒業證書授与式次第

- | | |
|---------------|--------------|
| 1、開式の言葉 | 司会 事務長 後藤長三郎 |
| 2、卒業證書授与 | 教頭 畠山 満徳 |
| 3、学校長挨拶 | 校長 菊谷 一 |
| 4、世話人挨拶(謝辞) | 菊谷 一 |
| 5、受證者代表挨拶(謝辞) | 浅田 嘉美 |
| 6、校歌斉唱(旧歌詞一番) | 越後(深谷)春輝知 |
| 7、閉式の言葉 | 参加者全員 |
| | 教頭 畠山 満徳 |



後列左より 浅田、松谷、田中同窓会長
前列左より 岩川、菊谷校長、西村、越後

菊谷校長の式辞

春の息吹が感じられる今日、ご来賓の皆様のご臨席を得まして、秋田県立能代中学校、第十七回卒業式を六十二年ぶりに挙行できま

すことを心から感謝申し上げます。
ただ今、卒業證書を授与いたしました岩川さん、深谷さん、西村さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、太平洋戦争の最中、本校での就学を半ばに、兵役のため、人生の大きな節目となる卒業式に出席できず、卒業證書も受領できないままに悔しい思いをされてきたことと思います。

今日、晴れて卒業證書を手になされて感慨も一入のことでしょう。一方、卒業證書を授与でき、当時の吉田校長も安堵されたことと思います。

かけがえのない青春時代が、生きていくのに精一杯な時代と重なってしまった皆様でしたが、幾多の困難を乗り越えてこられたのは、本校の校訓である「至誠力行」を心の拠り所とされてきたお陰ではないかと思えます。

皆様の前途に幸多からん事を心から祈念すると共に、在校生への叱咤激励をお願いいたします。式辞といたします。

平成十八年三月一日

秋田県立能代高等学校校長 菊谷 一

◆世話人挨拶（謝辞） 浅田 嘉美

本日は、明日の卒業式を控え、何かと多
用な折りにも拘わらず、学校当局と同窓会関
係者多数のご臨席を賜り、このような式典を
挙行いただき感謝申し上げます。

我が国が近代になって拘わった戦争は、満
州事変を契機に支那事変へと移行し長期化す
る中で、昭和16年4月私達は本校17期生とし
て入学しました。

忘れもしません、初冬を迎えた12月8日の
朝礼時に、全校生徒が時折パラつく霰の校庭
に整列し、時の高橋一郎校長先生から、我が
国が本8日未明、太平洋に於いて米英と戦争
状態に入った事を告げられ、本校生徒のみな
らず、国民が国策に沿って勝利に邁進するよ
う訓示を受けた事が蘇ります。

当時は、学校教育機関の在校生や、一般少
年を対象とした軍事教育関係部局に入隊を推
奨されて、15歳前後の少年達が競って志願入
隊し、一日も早く、国民の期待する軍人にな
るため、日夜の分けなく、苛酷な教育訓練に
精励いたしました。

旧制秋田県立能代中学校（現能代高等学
校）第17期生（昭和20年3月卒業）の内、軍
部関係の少年兵教育機関に志願して入隊した
学友達は予期せぬ敗戦により生存者は復員を
余儀なくされ、郷里に帰還しました。

復員後の人生については個人の選択に依る

ものでしたが、進学を希望する者は、出願に
あたり中学校卒業の証明書が必要であつたた
め、学業半ばにした学校へ出向き、卒業証明
書の発行を求め、その受領が容易に出来まし
た。

ところが卒業の証明書を必要としない学友
は、その事も知らず用事がないので殆ど学校
へ出向くことなく今日を迎えました。

中には、上記事情を心に抱きながらもため
らい、中学校中退と自認することしかでき
ず、学歴社会の世間にあつて、不利な職場環
境や生活環境に耐え甘んじて今日を迎えたと
言っても過言でないと想像される人もおりま
した。誠にお気の毒な日々であつたことと同
情いたします。

昨今、関係者の中から、生存中に何らかの
形で学校から卒業證書を授与してもらえない
かと相談され、急遽学校当局に出向き、これ
までの事情を縷々ご説明申し上げたところ、
校長先生始め当局のご厚意により、今日ここ
に、晴れて卒業の日を迎えることが出来まし
た。衷心より感謝申し上げます。ありがとう
ございます。

復員後、同じ思いで日々を送られたであろ
う、学友の物故者に、本日の名誉ある式典（行
事）を報告し、晴れて能中第17期の戦後の終
わりを告げたい思いで一杯です。

尚、本日の行事が、能代高校の創立八十周

年にあたり、同窓会に一灯を添えることが出
来れば、本校の歴史に新しい星が燦々と灯さ
れた事になると思います。

このようなお計らいを頂いた学校当局と同
窓会に心より感謝を申し上げます。

終わりにりましたが、母校と同窓会の更
なる隆盛と発展をお祈り申し上げ、本日用
れた卒業證書授与式のお礼と致します。あり
がとうございました。

平成十八年三月一日

第十七期世話人 浅田 嘉美

◆卒業證書授与 記念植樹

日時 平成18年5月11日
場所 校庭「自在の像」の横

（北側1列2本）

樹種名 枝垂れ桜
樹高 180^{センチ}

植樹者名 伊勢栄治、越後（深谷）春輝知、

下田熹頌、白鳥新一、西村豊、

藤田良三、村上（茂呂）定廣

世話人 浅田嘉美、千葉保一

参加者 同窓会長田中仁純、校長井上高

廣等6名

主催者側 越後春輝知、西村豊、
浅田嘉美、造園業者納谷農園

◆記念植樹 井上校長挨拶

すっかり春らしくなりました今日の佳き日、ご多忙の中にもかかわらず記念植樹にお集まりいただきまして有難うございました。

この度は、六十一年遅れの卒業式を挙行し、その記念にしだれ桜を植樹して頂きましてありがとうございます。また、皆様の記念植樹に対して心からお慶びを申し上げます。

皆さんは、本来であれば、昭和20年3月28日に卒業を迎えられるはずだったのですが、六十一年後の平成18年3月1日、旧制能代中学のあった樽子山ではなく、新制能代高校のある高岡で卒業式を迎えられました。大変厳粛で格調の高い卒業式であつたとお話を伺っております。

皆さんは、昭和16年真珠湾攻撃の年に能代中学に入学し、昭和20年、終戦の年に四年生で卒業を迎えるはずでした。東京大空襲があり、まもなく広島・長崎に原爆が投下されようとしている、日本にとって最も大変な時期、まことに特異な学校生活を送られたことと幸いです。

学徒動員や教練などが行われ、授業もままならない時期、そのような中、国を思い徴兵適齢期前に少年兵として志願し、そのため卒業式を迎えることができませんでした。さらに戦後の苦しい時代にたくましく生き、幾多の困難を乗り越え今日を迎えられた皆様に敬

意を表するとともに、これも校訓「至誠力行」の精神が皆様に宿っていればこそと拝察いたします。

どうか、植樹されたしだれ桜が大きく成長し、沢山の花が咲き誇るまでお元気で活躍くださることをご祈念申し上げます。

最後になりましたが、浅田様には卒業式の準備や同期生の連絡などをしていただきま

して六十一年遅れの卒業式が行われ、また、本日の記念植樹を行うことができましたことに感謝を申し上げます。

平成十八年五月十一日

秋田県能代高等学校 校長 井上 高廣

◆記念植樹

同窓会長田中仁純(25期) 挨拶

遅かった桜の花も散り、新緑の季節を迎えようとしています。

本年3月1日、能代高校17期生の数名の方が、太平洋戦争後六十一年目に卒業證書を高岡の能代高校校長室で授与されました。終戦間際の昭和20年3月28日、少年兵として軍務に服されていて卒業式に列席できませんでし



平成18年5月11日 植樹祭
参加者全員で前後2本のしだれ桜を植樹

た。

皆様は、神国「日本」の必勝を信じ、学業を半ばに軍(隊)に志願されました。「滅私奉公」殉国の赤誠をもって、日夜、苛酷な訓練に精励された皆様は、昭和20年8月15日の終戦を告げる玉音放送をどのようなお気持ちでお聞きになられたものでしょうか。その心情や如何、察するに余りあります。

17期生有志の方の発意により、能代高校創立八十周年を機に、戦後、六十一年を経たとはいえあのような卒業證書授与式が挙行されたことは誠に意義深いものであり、学校当局のご配慮に同窓会として深く敬意を表します。

本日、そのことを記念し、この事実を後世に伝えるため、「しだれ桜」を母校に寄贈していただき本当にありがとうございます。同窓会を代表し、厚く御礼申し上げます。

17期生の方々のご健康とさらなるご活躍、日本ひいては世界の恒久の平和を祈念し挨拶いたします。

平成十八年五月十一日

秋田県立能代高等学校同窓会

会長 田中 仁純